

11番社会民主党 藤田誠でございます。
一般質問の前に、所見を述べます。
本日最後になりました。あと1時間おつきあいをお願いいたします。

「アリーナプロジェクト」の有識者会議もスタートし、新たな、街づくりの起点となるのか、ならないのか、各地域に拠点の整備を求めてきた立場からすると、大いに期待をしている一人です。

私にとって、5人目の市長と関わることになりましたが、小野寺市長の市政運営に疑義があるのは、今のところ職員給与削減条例だけですので、改めてお願いをしたいと思います。

アウガの特別清算に至った市の責任を示すとして、青森市職員全員の給与削減が実施されました。

管理職を除く職員については、年度末をもって、削減を終えましたが、平成30年第1回定例会において、管理職職員の給与削減を継続する条例案が、賛成多数で採決されました。

管理職の給与削減率が軽減されたとは言え、継続されたので、アウガの特別清算に支障がっているものと思っておりましたが、本年4月14日をもって青森地方裁判所により、特別清算終結決定が確定されました。

アウガは身も心も青森市役所になり、給与削減を行う理由は無くなったものと私は思います。

予算の提案権は市長にあるので、市長を筆頭に、青森市職員一丸となって、新たな青森市作りに向けて取り組むためにも、市長の判断をお待ちしています。

唐突ですが、今定例会の最終日前には、はやぶさ2号が「リュウグウ」に到着し、お祝いが待っています。

それでは、通告に従い一問一答での一般質問をします。

初めに、学校給食における安全対策について

青森市の小学校給食は今後、浪岡給食センターを含め、小学校給食センターに集約する計画になっています。

学校給食法に基づき制定されている、学校給食衛生管理基準、学校給食施設及び設備整備管理に係る衛生管理基準において、食品を取り扱う場所は内部温度及び湿度管理が適切に行える空調等を備えた構造で換気を行い、室内温度は25度以下、湿度80%以下に保つように努めることと定められて、

調理後の食品は温度管理を行い、調理後2時間以内に給食できるように努める事とされています。

市からは、献立によって2時間以内に間に合わない場合もあるが、青森市小学校給食センターでは、安全に考慮し味にもこだわり、対応しているとの報告を頂きました。

これまで、何回か小中学校の給食に関わり質問をしてきました。

今回は給食の搬送時間を質問し、2時間ルールの厳守を促しました。

言うまでもなく、子ども達が楽しみにしている給食で、絶対に食中毒を出してはならない、青森市の宝である子どもたちを、みんなで大事に守り育てるため、関係者に注意喚起と思い、時々質問してきました。

つい先頃、宇都宮市の学校給食でノロウイルスによる食中毒が発生した報道がありました。

生活環境が大きく変化をし、食中毒に季節性がなくなっているようにも思えます。

今月に入り気温も乱高下していますが、食中毒が多発する時期になってきましたので、しつこいようですが、青森市の学校給食における食中毒防止対策をお示しください。

次に、計画的な道路整備（舗装・側溝）について

先般の質問において、工事単価が上昇し、整備区間が少なくなっていると答弁がありました。

今年度、道路整備に関わる予算はマイナスシーリングの対象とせずに、同規模の予算が確保されたことは、市長が行っているタウンミーティングでの生活環境整備の要望を、強く感じての措置だと思えます。

そこで、側溝や舗装等の生活環境に係る整備については、長期的な計画を立てて、毎年度の整備区間を一定にするなど計画的に整備すべきと思うが、市の考えをお示し下さい。

次に青森市民病院について

4月末の連休の始まりに、子どもが体調を崩して、主治医である青森市民病院行き、入院となりました。

その病棟では、季節的に気温差が大きいためなのか、地域の民間病院の多くが休診のためなのか、重症患者で満室でした。

おかげで特別室を勧められて初めて利用しました。

数日で、普通病棟に戻されましたが、病棟は満杯で、看護師が別の病棟からも応援に駆けつけ、病棟内は騒然としていました。

連休期間は救急の窓口も、市民病院全体が、連休明けを待っている状況は、山で遭難して、救助隊が朝になれば救援に向かってくれる、そのように見えました。

この間、家内と交互に付き添い泊りをし、他の病棟も見て、改めて青森市民病院の存在価値を感じる事が出来ました。

青森市民にとって最後の砦、日頃病床利用率が低くても、いつでも青森市民を受け入れる体制が青森市民病院にある事を身をもって実感しました。

当たり前だと思いますが、スタッフが皆んなで、患者さんに対応しているのを見て、誇りに思いました。

働き方改革が叫ばれ、医療現場にも、働く環境の整備が求められていますが、恒常的な残業になっていないか、看護師や先生の皆さん、市民病院で勤務されている人たちが、いつ変えているのか、いつ休んでいるのか、働きすぎではないかと感じますが、市民病院事務局も多くの医療関係者が青森市民病院で働きたいと思える体制作りのため尽力されているようですので、期

待をしています。

また、救急車の音が青森市民病院に向かってくるのを聞いていて、災害時のことが頭に浮かびました。

中規模、大規模災害時にどこで治療を受ければ良いのか、縦割り行政の影響なのか、そのそれぞれの部が、それぞれ緊急時の体制を作っていますが、「青森地域ビジネス交流センター」のように起業する人たちを組織横断的に支援するように、どこが緊急時仕切るのか、全体像が見えませんでした。どのような状況にあっても、青森市民病院がいつでも緊急時の受け入れ体制ができていれば、問題ないと思うので、質問します。

災害時の青森市民病院の役割と受け入れ体制について、お示し下さい

次に観光行政について

「ネブタン」の運航について質問します。

青森市シャトルルートバス「ネブタン」の運航が開始されて、11年目を迎え、観光客のニーズに応え、ルート変更を積み重ね、観光ルートバスとして路線バスとの競合をさけ、観光に特化したバスとして位置づけられているものと思います。

今年、新たな観光戦略として、東ルートの実証実験が行われると報道されていましたが、その運航の内容についてお示し下さい。

最後に、学生からの政策提言について

南高校で各会派の代表の議員との交流が現在も続いているようですが、数年前会派代表として出席、クラスの生徒と青森市について話し合いました。

とても、斬新な意見を聞くことができ、参考になりました。

今、市長は各町会の代表である町会の役員とのタウンミーティングを行って意見を聞いています。町会側から見ると、意見を直接聞いていただける機会を得て、町会役員はありがたく思っています。

ただ、町会の役員に意見を寄せる人に、学生はほとんど見当たりません。

小中高生も学生ですが、ここでは、大学生に絞って質問します。

大学生を対象としたタウンミーティング等の開催など、学生の意見を聞く機会を設けるべきではないか、市の考えをお示しください。

以上、壇上からの一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。